

プログラム番号 3002E

トップリーダーセミナー
「大学アイデンティティの共有と教員・職員の役割
—大学を考え、自校を知り、ミッションを実現する—」

■講師

寺崎 昌男（東京大学・桜美林大学・立教大学 名誉教授）

1967年東京大学大学院教育学研究科修了。教育学博士。東京大学で初めて大学史研究で博士学位を取得しました。立教大学文学部・東京大学教育学部を経て桜美林大学大学院に勤務し、東京大学では百年史編集委員長・学部長、立教大学では全学共通カリキュラム運営センター部長、桜美林大学では大学アドミニストレーション専攻創設委員を勤め、大学教育を実践と歴史の両面から考え続けてきました。

■プログラム概要

FD、SDという営みは、しばしば通りのよい合言葉として語られます。しかし、(1)それらはなぜ「義務」なのか、(2)誰の義務なのか、(3)どうすれば「FDあるいはSDを行なった」ということになるのか、といった問題が真剣に考え抜かれたとはいえません。加えて(4)サバイバル時代を前に、大学自身が抱える深刻な課題とFD、SDとをどう結び付けばいいのか、(5)グローバリゼーションと地域連携とが同時に求められる今日、特にSDの将来にはどのような試みが求められるか、ということは特に緊急な課題であると思われます。講義者はこれまで職員の能力開発のために最低限必要な勉強は何か、という問題を「大学リテラシー」という言葉で提案してきました。今回もそれを確かめた上で、新しい経験に基づく提案を行い、皆さんの検討を仰ぎたいと思います。

■準備物や事前課題

講義者の下記の2著を目にしておいてくださると理解が早いかもしれません。

寺崎昌男『大学自らの総合力Ⅱ』2015年 東信堂

寺崎・立教学院職員研究会(編)『21世紀の大学 職員の希望とリテラシー』2016年 東信堂

■主な受講対象

さまざまなレベルで「主任」「主事」「座長」「委員長」「センター長」といったリーダー役をさせられている方たちに適した内容になるかもしれません。しかしフレッシュマンの方たちも数年後には大学の運命を担う存在になるのですから歓迎します。

■本プログラムの到達目標

1. FDと言われる活動の目標をイメージすることができる。
2. ある活動が「SDをしている」という状態になるにはどのようなミニマムエッセンシャルズが必要なのかを明示することができる。
3. 大学改革の課題とFD・SDとの関連を、自分の言葉と論理で表明することができる。

■日時・場所

日時：平成30年8月30日（木）13：00～15：00

場所：香川大学幸町北キャンパス